

# いわき市立三和中学校

## 実践研究テーマ：自分らしい生き方を探究し、自己実現を目指す生徒の育成 ～地域に根ざしたキャリア教育（ふるさと教育）の実践を通して

### ◆研究テーマ設定について

本校では、「創造・自主・健康」を教育目標に掲げ、コミュニティ・スクールの機能を生かし、学校・家庭・地域が一体となって地域社会に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。生徒が地域の課題を自分ごととしてとらえて学び続け、ふるさとに誇りを持ち、地域社会で活躍する人材として成長するために、自分らしく自己実現できる生徒の育成を目指している。



### ◆生徒の課題・実態（児童生徒理解のためのアンケートの考察から）

- ・「理想の自分自身」に近づくための方法を見い出せずにいる。
- ・または、「近づけていない自分自身」を自覚する場面が多い。
- ・失敗に対する不安から主体的に挑戦できずにいる。



### ◆三和小学校・中学校の9年間を通して重視したこと

- ・児童・生徒に課題を「自分ごと」としてとらえさせる場の設定。
- ・児童・生徒が意思と責任をもって自己決定、合意形成できる場の設定。
- ・児童・生徒の自己有用感を高めるための価値付けや振り返りの充実。



学年縦割り班、小・中連携で取り組んだ異学年集団の活動

### ◆実践研究発表会での公開授業（学級活動）より

1学年 学級活動（1）

○議題 「小学生に中学校の行事の楽しさを伝えよう」

○本時のねらい

これまでの学校生活を振り返り、小学6年生（次年度新入生）へ中学校生活が楽しみになるように説明会で紹介する内容を定めることができる。

### ・提案理由の説明



1月に新入生説明会が予定されており、自分たちの学級が中心となって説明する内容を決めることについて、提案者から提案理由が説明された。事前のアンケートの結果も踏まえ、「学校行事の紹介」を話し合いの柱として話し合うこととなった。

### ・話し合い



個人で考える→小集団で考える→全体で意見を共有するという話し合い活動の流れの中で、多くの意見が挙げられた。また、徐々に生徒自身の体験談や思いなどが語られ、学校行事だけでなく部活動や生徒会活動を紹介しようとするなど、意見を重ね合わせながら考えを広げる様子が見られた。

### ・終末場面



活発な意見交換を通して、生徒がこれまでの学校生活を振り返りながら話し合い、司会・進行の生徒を中心に合意形成することができた。終末の助言では、学級担任より積極的に話し合い活動に参加する様子や、自分自身の実感や思いを踏まえながら主体的に考えを発言できていたことについて価値付けた。

### ・実践活動



新入生説明会に向け、学校生活、学校行事、部活動について紹介する班に分かれ、シナリオやスライド作成に取り組んだ。休み時間を活用しながら自分たちでリハーサルを繰り返し、新入生が中学校を楽しみにできるように工夫するなど、より伝わるように相手意識をもって取り組んだ。

本番では、小学6年生とその保護者を前に、自分たちの中学校生活での体験談を交えながら堂々と発表した。会場には温かな拍手が溢れた。生徒にとっても1年間を振り返るとともに、先輩としての第一歩を踏み出す活動となった。

# いわき市立三和中学校

## 実践研究テーマ：自分らしい生き方を探究し、自己実現を目指す生徒の育成 ～地域に根ざしたキャリア教育（ふるさと教育）の実践を通して

### ◆実践研究発表会での公開授業（学級活動）より

2学年 学級活動（1）

○議題 「地域行事にクラスとして参加できることを考えよう」

○本時のねらい

地域行事（三和の里フェスティバル）のボランティアに、当日参加できない生徒も含め学級全員で参加したと言えるよう、友だちの思いに寄り添いながら、どのような活動ができるか考え、合意形成を図る。

#### ・提案理由の説明



司会、進行、記録を生徒が担当し、提案者から提案理由について説明された。地域の商工会より地域行事のボランティア依頼があったことをきっかけに、学級全員で地域貢献のためのボランティアとして参加することについて話合うこととなった。

#### ・話し合い



積極的な意見交換が行われる中、友だちの意見に共感する姿や、相手の意見を掘り下げようと質問をしあう場面もみられた。また、小集団をつかって付箋に意見を書き出したり、出された意見について司会・進行を中心にまとめたりするなど活発な話し合い活動につながった。

#### ・終末場面



司会・進行より、会の中で合意形成したことなどについて確認し、確実な実践につなげるための役割分担や、準備物の作成に取り組んだ。それによってさらに自分たちの意思と責任のある主体的な活動につなげることができた。終末では、学級担任より一人ひとりが発言し、人間関係形成能力を発揮しながら集団決定に貢献できたことを価値付けた。

#### ・実践活動



三和の里フェスティバルでの学校公開に向けたウェルカムボードや、三和町商工会によるイベントの看板作成に取り組んだ。本番前日の放課後、校舎内の装飾を行い、本番当日は運営スタッフの一員として活動し、多くの来場者に喜んでいただき「地域のために」という思いを実現することができた。

### ◆公開授業や実践研究を通しての成果や気づき

生徒が課題を自分ごとととらえられるよう事前指導や準備を充実させながら実践機会を確保することで、自主的な話し合い活動へと展開することができた。日頃の指導を通して生徒の課題意識が高まっているかどうかや、話し合いのスキルが十分について授業者が把握したり、小・中学校間で継続した指導ができるよう情報交換をしたりしたことが効果的であった。また実際の話合い活動を通して、生徒が生活の基盤である学級の中で自分の役割を自覚したり、互いに尊重し合える人間関係を形成する力を身につけたりすることができた。話し合い活動や他者との協働を通して、生徒がこれまで体験したことを自分ごととしてとらえることができおり、自分らしく自己実現を目指す生徒の育成を図ることにつながった。



### ◆生徒の学校評価アンケートから（昨年度との比較より）

「学校を楽しんでいる」、「自分の将来に夢や希望をもって学習に取り組んでいる」、「教師は生徒のよいところや努力を認めたり、褒めたりしている」といった項目を含め、アンケートのほぼ全ての項目で8割以上の生徒が肯定的に回答し、数値も上昇している。このことから、生徒がキャリア教育（ふるさと教育）を通して自己有用感を高め、自信をもって学習に取り組んでいると考えられる。



### ◆研究のまとめ（○成果と▲次年度への課題）

- キャリア教育（ふるさと教育）を通して、小・中学校の連携が一層充実し、生徒の自発的・自治的な活動につながる実践を展開することができた。また、事前指導の充実により、生徒が自分や他人の役割や良さを自覚しながら主体的に学習活動に取り組み、自己有用感を高めることができた。
- ▲ 生徒質問紙調査の結果より、「人の役に立つ人間になりたい」といった「他人の喜びのために自分から行動しようとする力」にまだ課題が見られる。カリキュラムマネジメントの視点をもって、指導計画の作成・改善を図っていきたい。